

国語 第5学年 漢字の広場⑤

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：既習漢字の読み・意味を確かめ、相手への依頼の文章の中で使う。教科書の図や課題は転載せず、本案独自の短い作文で用法を確かめる。B(1)オの学習として、相手への依頼の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：相手への依頼の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：漢字は正しくても、何を頼んでいるのかが省略されている。これに対して、依頼の内容と理由を別の文にし、敬意のある言い方と漢字表記を読み返す。使う漢字は当該学年の既習範囲から選ぶ。まだ習っていない字を書くことを評価の条件にせず、辞書や教科書で確かめてよい。〔知識及び技能〕(1)エとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「相手への依頼で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：相手への依頼の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：漢字は正しくても、何を頼んでいるのかが省略されている。依頼の内容と理由を別の文にし、敬意のある言い方と漢字表記を読み返す。使う漢字は当該学年の既習範囲から選ぶ。まだ習っていない字を書くことを評価の条件にせず、辞書や教科書で確かめてよい。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「相手への依頼で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」への答えを学習前後で読み比べる。
変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

